



case. 02

暮らしをやさしく包む 道産材のハーモニー

構造にカラマツ、外壁に道南スギ、床にはナラ。アンヌブリとイワオヌブリ、水田を望む地に建つYさんの住まいには、3種類の道産材が使われています。「木をふんだんに使ったマイホームを建てたいと、結婚した時から考え続けていました」と、Yさん。ご夫妻の3年越しの夢を叶えたのは、地材地消の家づくりに積極的に取り組むSUDOホームでした。

北の大地で育まれた材は、住まいとなった後も土地の風土に馴染み、高い耐久性を発揮するといいます。「ほっとするような温かみのある空間を実現できるのも魅力ですね。大工さんの丁寧な仕事で引き出された木肌の美しさも気に入っています。住むほどに愛着が増えていくようです」とYさんが満足そうに話してくれました。



1



2



3



4



5

1. 直線的でスタイリッシュな外観に対し、室内はカラマツの梁や柱を現しにし、床をナラの無垢材で仕上げると、温かみのある柔らかな雰囲気。ゆったりと弧を描く土間の曲線に、大工の技が光る
2. ご夫妻お気に入りのニセコの山並みと水田を、絵のように大開口で切りとったリビング
3. 玄関土間の壁には、道南スギを張って仕上げた。材本来の色を生かして、外壁とはまた趣が異なる
4. 対面キッチンの造作カウンターも、床と同じナラ無垢材仕上げ。ラウンド型のテーブルを造作して、空間に柔らかさをプラスした
5. 道南スギとガルバリウム鋼板を用いた外観。道南スギの外壁は、Yさんが今後セルフメンテナンスを行う予定

Yさんの家の床は、道産ナラの無垢材。色の濃淡や節の有無など、一枚一枚に個性があるため、全体の仕上がりイメージしながら材を配置するように心がけています。また、無垢材は湿度の変化に敏感なので、木が自由に動ける余地を適度に残しつつ、糊を使わずに張ります。目立ちませんが、床も大工のこだわりとセンスの見せ所です。
(棟梁・関 誠さん談)



この家で使用した主な道産材と部位

- カラマツ(構造材)
- 道南スギ(外壁材、一部内装材)
- ナラ(1・2階の床材、キッチンカウンターの腰壁)

設計/SUDO設計 施工/SUDOホーム(須藤建設)